

競技注意事項

Instructions for the Competition

1. 規則について

本大会は 2021 年度日本陸上競技連盟規則並びに本大会申し合わせ事項・競技注意事項により実施する。

2. 練習について

(1)密集・密接の回避

ウォーミングアップ及び練習は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、個別に行うこと。

(2)競技前練習について

- ① 役員の指示に従い安全に留意すること。
- ② 競技場裏の走路も使用可能とする。
- ③ 開門 7:00 から競技開始 20 分前までは、競技場の使用を認める。
- ④ 競技中のバックストレートでの練習は 100m・100mH・110mH のみ可能とする。それ以外の競技中のバックストレートでの練習は厳禁とする。
- ⑤ 開門及び閉門は以下の時刻とする。
開門 8:00 閉門 16:00

(3)投てきの練習について

- ① 公式練習については、投てき審判の指示に従い、競技開始前に行うこと。
- ② 助走練習、投てき練習時には、ソーシャルディスタンスを確保するために、競技役員が 1 人ずつ順番に呼び出す。
- ③ 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、滑り止め(炭酸マグネシウム)については、共有しない方法で実施する。そのため、主催者は、滑り止め(炭酸マグネシウム)を用意しない。競技者は必要に応じて必ず滑り止め(炭酸マグネシウム)を持参し、使用すること。なお、松ヤニの使用は禁止する。

3. 競技場使用上の注意

(1)新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、以下の通りとする。

- ① 更衣室とシャワールームの使用を禁止する。
- ② 声を出しての応援、長距離種目のタイム読みは固く禁止する。
- ③ スタンドでの部旗・横断幕の掲出は禁止する。
- ④ 競技場に入場できるのは、審判・補助員、指導者・コーチ・マネージャーのみとする。
- ⑤ 大会当日中の 大学ごとの場所取りは厳禁とする。なお、メインスタンドの一部は、個人の待機場所として使用を認めるが、他の競技者との距離を十分確保すること。
- ⑥ 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、競技者は、競技時間に合わせて競技場に立ち入り、競技終了次第帰ること。競技場退出時には、すべての持参物を持ち帰ること。

(2)開門前、閉門後に許可なく競技場内、スタンド内に侵入している競技者を発見した場合、厳重に注意し、その競技者の以降の出場を認めない場合がある。

- (3)シート固定等で、競技場内においてテープ類(ガムテープ、養生テープ等)、紐やスズランテープの使用を許可する。
- (4)競技場は全天候型ウレタン舗装であるため、スパイクはトラック、フィールドともに全天候型トラック用平行ピンで長さはトラック、フィールドともに 9mm 以下とする。ただし、走高跳、やり投げについては 12 mm 以下とする。
- (5)当該競技の出場者以外はトラック・フィールド内に立ち入ってはならない。注意に従わない場合、同校の競技の出場を認めない場合がある。
- (6)競技場内において競技者は助力とみなされるビデオ、カセットレコーダー、ラジオ、CD・MD プレーヤー、トランシーバーや携帯電話、スマートフォンもしくはそれに類似するものの使用・所持を禁止する。勧告を受け入れられない場合は失格となる。なお、その他競技者に対する助力については競技規則 TR6 を適用する。
- (7) 医務室は競技場内に設ける。なお、大会期間中において起こった怪我に対しては主催者側が応急手当を行うが、それ以降の治療に関しては一切責任を負わない。ただし、出場者は原則として、スポーツ安全保険に加入しているので、この保険が適用される場合がある。必ず保険証のコピーを持参すること。なお、新型コロナウイルス感染症はスポーツ安全保険の適用対象外である。
- (8)スパイクで競技場内通路を通行することを禁止する。
- (9)貴重品の管理は各個人で責任を持って行うこと。盗難・紛失について主催者は一切責任を負わない。拾得物があった場合は、テクニカルインフォメーションセンターにて一時保管をする。
- (10)ゴミは各個人が責任を持って持ち帰ること。
- (11)競技場内でのすべての電源の使用を禁止する。
- (12)競技会当日、貸し切りバスなどの駐車場はB校地に駐車すること。その際駐車場許可書を提示すること。(駐車場許可書は本連盟HPに後日掲載する。)
- (13)開閉門時間は以下の通りである。ただし、予告なく変更する場合がある。また、下記の記載の開門時間より早く競技場内には立ち入らないこと。

期日	開門時間	閉門時間
3月26日(土)	8:00	16:00

※本大会のみに出場する競技者は競技終了後、速やかに帰ること。

4. 招集について

- (1) 招集の方法について
- ①招集所は、第4コーナー外側のスタンドの下に設置する。
 - ②競技者は出場種目の招集開始時刻になり次第、招集所でシューズ、スパイク、ナンバー、商標の確認を受けること。※シューズに関しては、競技注意事項別記の「靴底の厚さに関するルール改定」を必ず確認すること。
 - ③スタート地点到着後に、各競技現地で最終コールを行う。
- (2) 代理人による招集は認めない。
- (3) 招集完了時刻に遅れた競技者は出場を認めないので十分に注意すること。

- (4) 商標について陸上競技ルールブック2021改訂版「競技会における広告および展示物に関する規程」に従い、招集所にてチェックを行う。2020年度より商標に関する規定が変更になったので注意すること。
- (5) 招集時間は競技日程を参照すること。

	トラック種目	棒高跳	フィールド種目
招集開始時刻	競技開始 30 分前	競技開始 90 分前	競技開始 60 分前
招集完了時刻	競技開始 20 分前	競技開始 80 分前	競技開始 50 分前

5. 不出場について

競技参加者の不出場については、大会の運営の円滑を期するため極力避けること。やむを得ず不出場となる場合は以下の要領で申し出ること。

- (1) 大会5日前(3月21日)までに不出場が判明している場合は、本連盟ホームページよりGoogleホームを、3月21日(月)23:59までに本連盟事務所まで提出すること。
- (2) 上記期日以降にやむを得ず不出場となる場合には、不出場届(テクニカルインフォメーションセンター・招集所に用意)に必要事項を記入の上、招集所及びテクニカルインフォメーションセンターに提出し、承認を得ること。

6. アスリートビブスについて

- (1) アスリートビブスは2021年度九州学連指定の登録ナンバーカードを着用すること。
- (2) アスリートビブスはユニフォームの胸と背に確実につけること。ただし、跳躍競技に出場する選手は胸・背のいずれかにつければよい。ナンバーカードの折曲げは禁止する。
- (3) トラック競技は写真判定機を使用するため、トラック競技者は主催者の用意する腰ナンバーカードを右腰やや後方に、数字が見えるようにつけること。ただし、男女5000mについては両腰につけること。腰ナンバーカードは使い捨てのものを使用する。そのため、フィニッシュ後、係員に返却する必要はない。
※TR143の7・8・9項を参照のこと。

7. 競技の抽選・番組編成について

- (1) トラック競技については、原則としてタイム順に組分けをする。
- (2) 写真判定機故障の場合、その種目の当該ラウンドを全組、手動計時に変更する場合がある。

8. トラック種目について

- (1) 不正スタートに関しては、競技規則「TR162の7」の適用により失格とする。
- (2) スタートの合図は“On Your Marks”“Set”で行う。
- (3) 短距離種目では競技者の安全のため、フィニッシュ後も自分のレーンを走ること。

9. フィールド種目について

(1) 跳躍種目のバーの上げ方は原則として以下の通りとする。

種目・種別		練習	バーの上げ方
走高跳	男子	1m70、2m00	1m75-(5 cm 刻み)-2m10-(3 cm 刻み)
	女子	1m45、1m60	1m45-(5 cm 刻み)-1m65-(3 cm 刻み)
棒高跳	男子	3m70、4m50	3m50-(20 cm 刻み)-4m50-(10 cm 刻み)
	女子	2m70、3m10	2m40-(20 cm 刻み)-2m80-(10 cm 刻み)

※同成績の場合は競技規則 TR181 の 8 項を適用する。

- (2) 男子走幅跳は 2ピット、女子走幅跳は 1ピットで競技を行う。
 (3) 男子三段跳は 1ピット (12m)、女子三段跳は 1ピット (10m)で競技を行う。
 (4) 男女走高跳および男女棒高跳は 1ピットで競技を行う。

単独種目

残っている競技者数	走高跳	棒高跳	その他
4人以上※	1分	1分	1分
2～3人	1分30秒	2分	1分
1人	3分	5分	—
連続試技※※	2分	3分	2分

※4人以上または各競技者の最初の試技

※※走高跳・棒高跳では、残っている競技者が2人以上、同一の高さのみ適用する。

10. 用器具について

- (1) 用器具はすべて競技場備え付けのものを使用する。ただし、棒高跳用のポールについては、競技場備え付けのものがないため、個人のもを持参すること。各自が持ち込んだ棒高跳用のポール及びやり、円盤、砲丸、ハンマーについては、その他の競技者にも使用させなければならない。そして、持参した棒高跳用のポール及びやり、円盤、砲丸、ハンマーは、競技当日の招集開始時刻から招集完了時刻までに大会本部横の用器具倉庫にて検査を行う。そして、やり、円盤、砲丸、ハンマーについては、検定を受けて合格したものは、個人のもを使用してよい。ただし、使用の際の破損などによる事故発生の場合、使用した当該競技者が責任を負うものとする。この場合、主催者はその責任を負わない。
- (2) 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、滑り止め(炭酸マグネシウム)については、共有しない方法で実施する。そのため、主催者は、滑り止め(炭酸マグネシウム)を用意しない。競技者は必要に応じて必ず滑り止め(炭酸マグネシウム)を持参し、使用すること。なお、松ヤニの使用は禁止する。

11. 抗議について

- (1) 抗議は日本陸上競技連盟競技規則の TR146 に基づき、アナウンスで正式に結果が発表されてから 30 分以内に、競技者自身または代理人が口頭で審判長に申し出なければならない。
- (2) 審判長の裁定不服の場合には、その競技者に代わる責任者より上訴申立書と預託金(¥10,000)を添えて、正式な手続きをとること。この預託金は抗議が受け入れられなかった場合、没収される。

12. 各書類提出先について

書類名	配布場所	提出場所・依頼先
不出場届	テクニカルインフォメーションセンター 招集所	テクニカルインフォメーションセンター 招集所
記録証明書	テクニカルインフォメーションセンター	テクニカルインフォメーションセンター
上訴申立書	学連本部	学連本部(要預託金)

13. 商標について

陸上競技ルールブック 2021 改訂版「競技会における広告および展示物に関する規程」に従い、招集所にてチェックを行う。2020 年度より商標に関する規定が変更になったので注意すること。

14. その他

- (1) 記録証明書を希望する競技者は、300 円を添えてテクニカルインフォメーションセンターまで申し込むこと。
- (2) 競技場内での写真、ビデオの撮影については選手のプライバシー及び肖像権を保護するため大会関係者及び主催者に許可された者以外の撮影は禁止する。盗撮防止のため、大会役員が声をかけることがあるが、その場合は速やかに許可証を提示すること。また、許可なく撮影している者を発見し次第、厳重に処分する。
- (3) 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、練習及び招集、競技中など本大会に関わるすべての行為について、競技者への付き添いを禁止する。
- (4) 競技結果等は記録処理終了後に随時、本プログラムに掲載する大会速報サイトにて発表を行う。記録掲示は行わない。
- (5) 主催者は、個人情報の保護に関する法律及び関連法令等を厳守し、個人情報を取り扱う。なお、取得した個人情報は、大会の参加審査、プログラム編成および作成、記録公表、その他競技運営及び陸上競技に必要な連絡等に利用する。
- (6) ポールおよびやり返送について
返送を希望する場合は、テクニカルインフォメーションセンターに当日の16時までに輸送の手続きを行うこと。
- (7) 加盟校は学生審判補助員を派遣しなければならない。
※以上の内容以外でも、特別に役員から指示があった場合、必ず従わなければならない。

(別記)

競技注意事項 加盟校の皆様へのお願い

本年度は大会要項(別記)でお示した通り、新型コロナウイルス感染予防対策に則り、競技会を運営していくことを了承の上、大会にご参加ください。また、各大学が示している課外活動に関するガイドライン等を遵守し、参加について判断するようお願いいたします。なお、新型コロナウイルスの感染防止対策には万全を期しますが万が一、感染してしまったとしても、主催者は責任を負うことができませんのでご了承ください。

大会要項(別記)の「学連競技会 新型コロナウイルス感染症への留意点」に加え、以下の留意点につきまして遵守していただきますよう、ご協力をお願いいたします。

1. 体調管理について

(1)大会への参加について

- ①「競技会に参加する選手、指導者、チームスタッフ、審判、補助員」は、3月23日(水)から3月25日(金)の期間内に「PCR検査」または、「抗原検査」を受けて、参加することを義務付ける。
- ② 競技会当日の受付時に、主催者が用意した「様式2 競技会参加のための新型コロナウイルス検査報告書【提出用】」を、代表者はテクニカルインフォメーションセンターに提出すること。提出がない場合は、競技会への参加を認めない。
- ③ 競技会終了後、2週間以内に発熱などの症状があった場合、保健所、主催者へ報告すること。

なお、「新型コロナウイルス感染症についての体調管理チェックシート大会前後【保管用】」、「競技会参加のための健康チェックシート【保管用】各大学の代表者」、「様式3 競技会参加のための新型コロナウイルス検査報告書【個人用】」(本連盟ホームページ掲載)に各自記入し、最低1か月は保管しておくこと。

2. 参加者が競技を行う際の留意点

(1)基本的注意事項

- ① 招集所では他の競技者とのソーシャルディスタンスを確保し、マスクを着用して招集を受けること。
- ② 競技場内外を問わず、唾や痰を吐く行為は行わないこと。
- ③ タオルの共用はせず各自で持参すること。
- ④ 待機場所では、周囲の人とソーシャルディスタンスを確保し大声で会話をしないこと。
- ⑤ 競技中などに競技者が倒れた場合は直接接触れることをせず、医務室や大会本部へ連絡すること。
ただし、緊急を要する場合は、その限りではない。

(2)トラック競技

- ① レース中はマスクを着ける必要はないが、招集中・移動中・待機中は着用すること。なお、マスク着用による熱中症にも注意すること。
- ② レース終了後の手洗い、洗顔等を徹底すること。

(3)フィールド競技

- ① 待機場所における競技者同士のソーシャルディスタンスを確保すること。

- ② 投てき器具については共用となるので、使用後は手指消毒を徹底すること。また、競技中に不用意に手で顔を触らないよう注意すること。なお、終了後には入念な手洗いや手指消毒を行うこと。
- ③ 助走練習、投てき練習時には、ソーシャルディスタンスを確保するために競技役員が 1 人ずつ順番に呼び出すので、その指示に従うこと。
- ④ 競技者同士の会話は原則として禁止する。試技以外の待機中は、必ずマスクを着用すること。なお、マスク着用による熱中症にも注意をすること。

3. その他の留意点

(1) マスク等の準備

入場時に競技会参加者がマスクを準備しているか確認する。入場時にマスクを着用していない者は、競技場内への入場を許可しないので注意すること。参加者が、運動・スポーツを行っていない間、特に会話するときには、マスクの着用を指示する。

(2) 手洗いの実施

- ① 手洗いは、30 秒以上行うこと。石鹸は競技場にも準備する。
- ② 手をふくためのタオル等を共用しないこと。
- ③ 手洗いが難しい場合は、アルコール等の手指消毒剤を使用しこまめに消毒すること。競技場にも準備するが、できるだけ各自で持参すること。

(3) 洗面所(トイレ)の使用

- ① トイレ内の複数の参加者が触れると考えられる場所(ドアノブ、水洗トイレのレバー)を使用した場合は、こまめに手洗いをすること。
- ② トイレの便器に蓋がある場合は、必ず蓋を閉めて汚物を流すようすること。
- ③ 手洗いは、石鹸等を使用し 30 秒以上行うようにすること。
- ④ 手をふくためのタオル等は各自で準備すること。

(4) その他

- ① 宿泊施設や公共交通機関等の移動においても 3 密の回避など感染予防を徹底すること。
- ② 競技会へ出場する選手のみの参加とするため、応援、付き添いのためだけの者は来場させないこと。なお、集団での場所取りや声を出しての応援は固く禁止する。

競技注意事項
靴底の厚さに関するルール改定

WA のルール改定に伴い、本連盟主催競技会についても以下に示す基準を満たしていないシューズを身に
着ける競技者の出場を認めない。

種目	ソールの最大の厚さ (TR5.5、注意(i)、(ii)、(iii)及び TR5.5 の図(a)並びに(b) TR5.13.3 に基づく)	補足
フィールド種目 (三段跳除く)	20mm	全ての投てき種目、高さの跳躍及び、三段跳 を除く長さの跳躍種目に適用。全てのフィー ルド種目において、競技者の前の部分の中 心点のソール厚さは、競技者のかかとの中心 点のソール厚さを超えてはならない。
三段跳	25mm	競技者の前の部分の中心点のソール厚さ は、競技者のかかとの中心点のソール厚さを 超えてはならない。
800m 未満のトラック種目 (ハードル種目を含む)	20mm	リレーにおいては、各走者の距離で本規則が 適用される。
800m 以上のトラック種目	25mm	リレーにおいては、各走者の距離で本規則が 適用される。

TR5.13 注意

- (i) 規則 143 条(TR5)13(a)の「1 つの剛性プレートまたはブレード」は、複数のパーツで構成される場合
があるが、それらのパーツは、平行ではなく(例:個々のパーツは互いに上に積み重ねない)、1 つ
の平面に連続して配置しなければならない。※現行のルールブックに掲載の内容と変更なし。